



奈良文化財研究所第14回東京講演会の開催

2022年10月22日、有楽町朝日ホールにて「高松塚古墳壁画を伝える—発見から石室解体、修理を経て」と題した講演会を開催しました。この講演会は、奈文研創立70周年と高松塚古墳壁画発見50周年を記念したものです。これまで、高松塚古墳とその壁画の調査、保存ならびに活用については、東京文化財研究所と奈良文化財研究所が協力しておこなってきたことから、この講演会は両研究所による共催という形で開催されました。

奈文研から3名、東文研から2名の講演をおこなった後、奈文研の本中所長、高妻副所長、東文研の齊藤所長、早川副所長をパネラーに、建石東文研



奈良文化財研究所 第14回東京講演会チラシ

保存科学研究センター長をコーディネータとして総合討論「高松塚古墳壁画と文化財保護」をおこないました。

講演では、世紀の大発見となった高松塚古墳壁画の発見から現地保存、壁画の劣化から石室解体にいたる経緯、壁画を救うためにおこなわれた石室解体事業の実際と発掘調査、高松塚古墳壁画の彩色や漆喰の分析調査、カビで汚れた壁画のクリーニングや漆喰の強化処置、高松塚古墳現地の仮整備と公開活用について詳細に報告がなされました。

総合討論では、高松塚古墳壁画の劣化と保存に関する問題を掘り下げ、そこから得られた様々な教訓を再確認するととともに、壁画を保存するために新たに開発された分析調査法や修理法にも言及しました。さらに、文化財をいかに社会に位置づかせるか、地域社会における文化財の果たす役割、文化財が地域の持続的な発展を促すこと等についても議論がなされたことは、文化財保護の将来を考える上で一つの提言となったのではないかと思います。

(副所長 高妻 洋成)



東京講演会の様子